

## 保・幼・小の連携の在り方を探る

8月4日(月) 宝江ふれあいセンターで、市内保育所(園)・幼稚園・小学校より94名の先生方が参加して、保・幼・小関連研修会を実施した。開会行事の励ましの挨拶で宮城県東部教育事務所登米地域事務所長 一盃森広志先生より、「新しい幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育では、保・幼・小の連携を積極的に推進するよう望まれている。当研修会は数年前より実施されており、素晴らしい事である。今後の方向性が示されている。」と話されました。

研究協議は、米谷保育所 工藤祐史先生(研究主題: 基本的な生活習慣を身につけるための環境構成の工夫や援助の工夫)、西郷幼稚園 佐藤德行先生(研究主題: 明日も学ぼう幼稚園)、佐沼小学校 千葉則子先生(研究主題: 学びをつなげていくために)の研究発表を受けて行った。その後、宮城教育大学准教授 伊藤順子先生より、「発達と学びの連続性 ~ 幼児教育の視点から ~」と題して、「遊びを大切にした教育」の実践例を基に講話を頂いた。



発表者左より 千葉則子先生、佐藤德行先生、工藤祐史先生



講師の伊藤順子准教授

研究協議発表を聞いて、実際に小学校の先生と細かな話し合いをもつだけで、解決できるのだと知った。未来の子どもたちを育てるために、教師は大切な役割を担っているので、日々努力していかなければいけないと感じた。

## 【受講者の感想】

就学について、どのように小学校と幼稚園が関わっていけばよいのか、どのような準備をすればよいのかなど考えていたところだった。

## 国語の授業づくり基礎基本

8月5日(火) 市内小中学校より50名の先生方が参加し、宝江ふれあいセンターで第1回国語研修会を実施した。講師には昨年度も指導頂いた、宮城教育大学 教授 相澤秀夫先生を招き、「国語の授業づくりの基礎・基本 ~ 教材研究から発問づくり ~」と題して2時間にわたり懇切丁寧に、愛情あふれる講義を頂いた。特に学習指導要領の見方、授業の基本、発問の四原則、読んで分かる四段階などを、小学校低学年「おおきな かぶ」を題材に、具体例を提示して指導された。



講師の相澤秀夫教授

## 発問の四原則

- 出来るだけ短く
- 具体的に
- 1回かぎり
- 言い方、タイミングを計算して
- \* 発問・指示・号令は1回のみで

## 【受講者の声】

リズムとテンポが大切、模造紙はいらない、それなら発問を考えた方がよいというご指導に非常に納得しました。常に思っていたシンプルな指導過程の作り方について、具体的に要点をズバリと教えて頂き、本当にありがとうございました。新学習指導要領に関する解説もまじえて頂き勉強になりました。

授業の中で役立つものが、宝箱の中から、あふれてくるようでした。早速、校内の研究に役立てていきたいと思えます。



国語研修会の受講者

## 9月教育相談日

2日、9日、16日、30日の各火曜日  
4日間実施します。

- ・相談時間：午前9時00分～午後4時50分
- ・相談方法：面接、電話(予約が必要)
- ・予約受付：随時
- ・予約先、問合せ先：市教育研究所 22-8029